

仇祐七教集

阿羅野

五

911.3
八
5



尾陽の茅子た檀木堂主人荷今字集を



編と巻はあらはれし何あふは

五の成志はまふりたるにたむひ

もくまの成志はまふりたるにたむひ

わらへくはまふりたるにたむひ

いふはまふりたるにたむひ

雲のかはまふりたるにたむひ

もくまの成志はまふりたるにたむひ

了めたるはまふりたるにたむひ



Handwritten text in cursive script, likely a preface or introduction, spanning several lines.

元禄二年跡生

芭蕉抱香

荒野集目録

卷之一

花 郭公 月 雪

卷之二

歳旦 初春 仲春 暮春

卷之三

初夏 仲夏 暮夏

卷之四

初秋 仲秋 暮秋

卷之五

初冬 仲冬 歳暮

卷之六

雜

卷之七

名所 旅 述懷 志 樂常

卷之八

釋教 神祇 祝

負外

曠野集卷之一

花三十句

のよて

こ神さくくささるる心結子神の 貞室

さあまこいさくさくはなのおろし 路通

さあま雲いけぬくくまぬ枝のぬ 信徳

さあまらたふとことしはくくあくまむ 晨風

さあま——花乃後ら鬼瓦 交五

山里より花の心ゆる花見の那 尚白

何より花の心ゆる人乃長刀 去來

みゆ乃花の心ゆる世も花の心 野水

もみ花の心ゆる下を引て来るいなが 急洞

下は花の下を引て来るいなが 越人

も肌乃山帯おとふる枝のし 一井

兄おきりうあまに成地花の庵 俊似

兄弟のいろはあまの世のもの 嵐弾

もくもくもくはぬす人 舟泉

水汁は教了より花乃は 胡及

もつ花は誰う傘をいよいよ 長虹

榮舟乃花の心ゆる花乃雨 上枝

あまの心ゆるなるくはまの枝 鷗歩

連つや花の心ゆる花の心 荷兮

花の心ゆる花の心ゆる花の心 傘下

あまの心ゆる花の心ゆる花の心 薄世

花よきうはくくくくくくくくくく

山あひ乃を風花は夕日より又出し心苗

ねあひらるる夜宿らさるゝよの雲 越人

すうあひちまうせうちあひあひあひ 野水

獨来りて交遣ひまかり花結やま 冬松

花もよこころく昔の松尾止りあ 冬文

着わして世もあはれと蛇さき 荷守

西のよあそび人乃繪く

月をよきうはくくくくくくくくくく 芭蕉

あそび人乃はあそび人乃

檀乃女あそび人乃あそび人乃あそび人乃 同

杜宇二十句

あそび人乃あそび人乃あそび人乃あそび人乃

あそび人乃あそび人乃あそび人乃あそび人乃

あそび人乃あそび人乃あそび人乃あそび人乃 季吟

くさきや力かあしんぼのいし
同

馬のいしあひまのいし
鈍可

きくあしなまのいし

あしなまのいし

あしなまのいし
大津 智月

うしなまのいし
李桃

うしなまのいし
市山

月三年句

かきくしんぼ乃うしゆく月あし
梅舌 ^{上歳}

あしなまのいし
湍水

月あしなまのいし
一雪

雨の月あしなまのいし
越人

きくあしなまのいし
昌碧

あしなまのいし
津島 市柳

わしなまのいし
一髪友

とこまて木見とびやまの月影野中

長虹

岫を夜抱く月をよ那

任他

一ツをやいふとんもるよのつぎ

龜洞

是月をぬるまは木をのりせり

越人

又さやうに十二もまこまうら

文鱗

是月やうはあつてはまの舟

昌碧

ぬきつやまうらあつてまは中

傘下

又さや鼓乃屋也犬乃て急

二水

見はものもまえまうら乃月見中

野水

是月乃乃うらまうら

むつしは月をぬるまを鏡

荷今

この月もあつてはまの表也

回

是月や海もたあつて山もるす

去来

あつて下るまうらまのむき

胡及

まうらけしあつてまのぬ林う

釣雪

は月もあつてはまの月の影

一髪

十三夜

新婦の歩きしむる夜は月おが 杉風

朔日

暮いふは月乃氣もほし海乃泉 荷今

二月

えりんとたしあは月の方の 今

三月

何ぞ結えとそまふ似すころは月 芭蕉

四月

夕月あゝんらんらん志をいふ 卜枝

五月

何れともしんこ女をいふや青竹 一泉

伊藤

六月

西崎

銀川見ぬよはは月をいふ我ら 鶴聲

七月

岐阜

何れともしんこ海をいふ月をいふ 一髪

雪二十句

大雪

其角 千
 芭蕉 雪
 塵走 竹
 京加 至 車
 越人 道

是幸 法
 松芳 二
 鬼仙 陳
 驚汀 傘
 芹 下

雪乃新から鮭とくるあまし

雪が言わたりやうや雁鳥の色 桂久

ちりりや淡雪がほろ強飯 荷今

まつ雪や先雪履にて隣まで 路通

ほろ雪のふあまの野水

舟かけくくくゆゆゆ海の雪 芳川

曠野集卷之二

歳旦

二月の雪ぬけのりきせりあ花のま 芭蕉

あゆみの事からまかじむ乃春 古林凡

つらや九千年結ばる縄 風鈴軒

松のころと伊勢の家買人も誰 其角

うめのみぞ連歌あつすか 文鱗

月をみおとすまのまの松 去來

かゝる木となし〜年ふる松一晶

元節何々路通

元日加賀〜一笑

齒園又梅乃むむに赤ひの那大垣如行

物川社老又さ〜岐阜落格

〜龜洞

伊勢浦也津来引休せとぬの同

〜乃昌碧

去年の春あいさの〜元廣

小排子栗やひろまむあつのと舟泉

〜男子秋糸を〜同

山紫又〜白〜重五

松〜引鳥は〜釣雪

月也乃初を琵琶乃木〜同

運〜子又〜一井

〜神のる胡及

之木也... 長虹

之木也... 風彈

之木也... 同

之木也... 喘水

佛... 涼
已矣

之木也... 亦什

之木也... 冬文

正月... 傘下

之木也... 冬松

之木也... 柳風

大服... 所川

之木也... 昌勝

傘... 夕道

袖... 梅香

之木也... 野水

曙... 同

とらまきおとてこえんかき堅魚、越人

卯多也濱らお橋乃とみと波 同

ちの也志は妙階よとのま厚し 荷守

萬歳乃ちんそ隣よめりさそ 同

己のちいじり乃まお持海鳥な 同

我の喜月乃の立るものも油 僧 般齊

象の式う存るもの身おのちの事 貞室

初集

るる葉つむ跡を木乃割細小 越人

精出して痛やとてぬりの葉 野水

七草をちりくをこりて居子丸津山 俊似

女おろしお務へのあとのみ葉小加賀 小春

側傳了袂乃ねぬを儀葉之丸 藤羅

吾うも強してをぬる葉小岐阜 素秋

石物うつわをこは梅おしき葉 玄察

梅乃花 鳴歩

梅乃花 越人

梅乃花 落梧

梅乃花 一髪

梅乃花 冬松

梅乃花 蕉笠

網代民部の息とて

梅乃木よあをちて木也梅乃花 芭蕉

梅乃木よあをちて木也梅乃花 若風

梅乃木よあをちて木也梅乃花 去來

梅乃木よあをちて木也梅乃花 一桐

梅乃木よあをちて木也梅乃花 一笑

梅乃木よあをちて木也梅乃花 市柳

梅乃木よあをちて木也梅乃花 夢々

梅乃木よあをちて木也梅乃花 梅舌

梅乃木よあをちて木也梅乃花 野水



〜の〜の〜の〜の〜
塵交

〜の〜の〜の〜の〜
冬支

〜の〜の〜の〜の〜
芭蕉

〜の〜の〜の〜の〜
傘下

〜の〜の〜の〜の〜
路通

〜の〜の〜の〜の〜
荷今

出題

東

〜の〜の〜の〜の〜
舟泉

接木

〜の〜の〜の〜の〜
傘下

椿

〜の〜の〜の〜の〜
荷今

同

〜の〜の〜の〜の〜
卜枝

春雨

〜の〜の〜の〜の〜
湍水

同

夏の雨舟をよも命をくこと

氣彈

白尾鷹

もやゆと乃尻つまは白尾小

野水

蛛乃井ふまをぬかして下り肌

奇生

立切りしもの草えこは明金汁

龜助

すこ〜と穀子摘みのばし

舟泉

すま〜と橋也つますや土の羊

其角

す〜とあふ山子のもろり土

蕉道

土橋やと〜と〜と〜と

塩車

川舟や〜の〜つむ土筆

冬文

は〜し〜頭巾に〜

音江

蘭亭乃主人池

終〜と〜と〜

〜と〜と〜

池〜終〜
修名書習ふ折臨

素堂

風の吹方は後から吹く
野水

何れも船は折れ
越え

柳の葉は春の風
一笑

尺の間にやまの柳
小春

すくなく柳の風は
一笑

いとしさの葉を
昌碧

さうはとも髪ゆの
杏雨

こころは折れ
地橋

柳の葉は牛の
杏看

吹風は柳の
松芳

うしろの地は
枝遊

いとさ野鍛治
荷金

蝙蝠は月乃柳
全

昔柳の葉は
素枝

いとしさ後
鴉歩

菊乃古は
生枝

仲春



麦の穂かに芝木花を飢うる嵐也 不悔

芝木花さや杉葉の土手花あひい 長虹

木の葉花さ度あふうつる日影さ 傘下

菜花むの畦うら路さなるめい 清洞

うさくさく入支で畑うつ葉うら 去來

一カ歳を仕舞ふううさくま 昌碧

しこさあふわさくおんさく 越人

廣庭又一句拙くばあさく 笑艸

おんさくも蕪下さくうさく 除風

木のさくほさくわさく梅さ 一橋

うさくはさくわさく他ぬぬの梅さ 冬松

さくさくせさくやさく梅さむさくさ 一髪友

さく風さくさくさく梅さ雪ささ 野水

あふのさくさくさく梅さ中さ 除風

さく色さくさくさく梅さ那 一雪

りくくし備繩解くゆる維多山崎塩車

多岐つて言りあふ海陸山崎宗鑑

あふさつりあひ多岐かたう肌山崎落梧

あふさつりあひ多岐かたう肌山崎越人

あふさつりあひ多岐かたう肌山崎去來

あふさつりあひ多岐かたう肌山崎落梧

不圖とあつて後ふ居もな侍下津嶋松下

ゆふやまの海網津嶋一井

もろ嶋を兜乃尺お民多ひ津嶋柳風

櫻桐の葉に津嶋梅餌

かやう津嶋吹玉

かたせ津嶋百歳

あふさつり

あふさつりあひ多岐かたう肌山崎忠知

あふさつりあひ多岐かたう肌山崎荷今

あふさつりあひ多岐かたう肌山崎野水

鳥をたるとは乃とす洞の昔も 舟泉

草刈て草選おす三里一那 鷗歩

り蟻れと高し蓬とぬあそみ水 燭遊

麦畑乃人えはさるもの旗う那 杜園

まけ山や勝の月おす所 ^大或之

ほろくも山吹もさる勝乃音 芭蕉

松明くや乃吹くしけしあひ海 野水

山吹とつゆのあそみ死地あ ^ト枝

一まじりや山吹のやぐく中央へ那 ^{岐阜}襟雪

こまはなまもやれぬさかをくし ^同蓬雨

あそみまもねくさもさぬ燕うな 去來

さく食の鼻おまぬしむす燕う家 俊似

いよさかむとつて地とるるの燕う肌 長之

焚乃鼻は覗りすくえの那 長虹

焚昏くたてぬさゆらる燕哉 崩彈

友減て鳴きういぢあ乃鳥 且兼

角をぬくやまくととえゆ小藤が 蕉堂

あらしはらふや霧よふ浦のけしき 越人

たやと子も月し 鈴もや桃の石 傘下

人さあむ舟と障よのけしき 那 友重

あまゆりもあまゆり 躑躅の風 荷今

朧夜にあくくくくくくくくく 藤のむ 兼正

篝火よるのむくひを物舟のむ 飛洞

永き日や鐘実のむくひを物舟のむ 卜枝

永き日や油志免木乃とくくく 野水

り春あまをくくくくくくく 同

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

仙氣
田町

曠野集卷之三

初笈



三返りかへぬ白きと相とす終り及

路通

更衣襟もわろしやたたくとまよ

傘下

うらもへ刀もさしやんてさかへ

釋
扇彈

[Small vertical text, likely a commentary or note]

紙は襦きもあへしころもへ

荷今

山後まゝ

わろまゝこゝろあやまゝこゝろわろまゝ 芭蕉

いちごのこゝろはつらさゝかゝるつらさゝかゝる 一井

椋み木乃こゝろのこゝろのわろまゝ 越人

切ふまゝわろまゝとゆゑにわろまゝ 不交

わろまゝとゆゑにわろまゝのわろまゝ 藤蘿

わろまゝとゆゑにわろまゝのわろまゝ 亀洞

わろまゝとゆゑにわろまゝのわろまゝ 竹洞

ゆあひのこゝろあやまゝのわろまゝ 鈍可

まげらわろまゝのわろまゝ 夢々

上ケエよいつらむとては 麦一穂 玄察

枯色をこゝろまゝとてんは 麦のこ 生林

麦かまゝとて棄乃木こゝろとては 鈍可

むきかゝるまゝのまゝ 星のまゝ 山嵐

まゝとてはまゝとては 蝶乃まゝ 山嵐

鳥飛てあまれまゝのまゝ 山嵐

かゝり教へてあそびまはさばとるりす 岐阜 李桃

大粒あ雨くこもえー 茨子おむ 東巡

数きひく思お拾ひぬ茨子のむ 吉次

流川の居て

菴のあもふーくならぬは 嵐雪

きりーさ乃さもればえすか 野水

仲夏 櫻井

お月おるもて 尤楠

川美の馬屋よまはは 一髪

窓とて障子まの 不交

周兒とて人 風留

をゆく 青江

あはれ 合帖

くさか 卜枝

あは 鴉片

そゝれて 藤室

こころのこころのこころ

故の故の梅乃一本の梅乃

のこころのこころのこころ

白のこころのこころのこころ

故乃瘦之鑑のこころのこころ

こころのこころのこころのこころ

塔のこころのこころのこころ

足伸のこころのこころのこころ

花のこころのこころのこころ

没年

名のこころのこころのこころ

巻洞

己のこころのこころのこころ

尚白

五月雨のこころのこころのこころ

一籠
大律

園のこころのこころのこころ

野水

笋乃のこころのこころのこころ

芸来

竹乃のこころのこころのこころ

長紅

ねたし一取して

おと一うううううううう

持舟か

芭蕉

おさし

栲のぼくは毎の舟中を懐や
荷守

同

おたあは船も宿ん栲舟舟
越人

是あふたの教もかまぬ栲舟舟
淳兒

曲江は舟のええ船ううわうな
梅餅

栲舟舟のええうううううう
路堀

松の舟舟をええうう復野舟
ト枝

紅乃根舟か復野中乃栲舟
鈍可

山園花舟や泥の舟舟舟乃雨
同

舟子や舟舟舟人舟舟舟人
越人

舟一也灯の舟舟舟乃あさ
藤羅

復舟舟や舟舟舟舟舟舟舟
且芽

舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

すひんくもこちん 隻石崖儀 其角

リウカヤ秋きりゆく 瓢の肌 芭蕉

ゆふの志ほむさ人乃志しぬ 野水

父息き改乃留ほよのうらゆ 借雪

山詠来て夕々本をさほのまのふ 市柳

名も色ちゆゆふほう 似く 長虹

暮夏

楠も 蟬 昌碧

雲北 腦け 野水

夕ち 傘 傘下

あー 夜も 去来

強し 白雨 去来

簾 涼し 荷手

そよ 色 同

ねと 寸の人 如風

花石 乃石 俊似

涼しきゆ櫓乃下ゆくあのみ音 全

柁燈のともゆるゆりゆり 舟 十枝

しらりたるそりたまやのなる川 舟 未學

吹ちりたるあれうしたく蓮の那 岐阜 秀正

蓮みじり 松坂 晨風

笠あはれそみぬく蓮のそり 古梵

河骨のまののわやしのあゆみ 美水

そりそりとそり 長虹

すそ 後似

連あゆの待き 女瀾

引立てる鳥にのち 濠月

か 尚白

志 一髪

虫 十枝

麻 李晨

約 越人

綿乃心き海く菊く何くぬ
素堂



[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]



曠野集卷之四

初秋



ちううちや麻川あとの秋は風
越人

梧乃我やせうの川より火の風
圓解

松嶋雲名のももろ

一葉あけきくし海にまきりし
仙化

津島

ふしりのちもや秋のたぐさ
方生

男くさた羽織は星は手白
杏雨

秋風を志しきまらうと弦をらん

芭蕉

草や植われよしのきくしうと

文鱗

あさう木能白さきもあたまのぬゆ

荷兮

子たむらひのちのしう一海のみ

秋風を志しきまらうと弦をらん

同

隣あはれあさうほけしうしう

鴈歩

あはうふやひくもあさうと

胡及

あはうふやひくもあさうと

嵐道

秋風を志しきまらうと弦をらん

去來

涼しきもあさうと

昌長

畦道くあおむすゆうあさうの風

鷺行

あはうふやひくもあさうと

一髪

あはうふやひくもあさうと

素秋

あはうふやひくもあさうと

芭蕉

あはうふやひくもあさうと

其角

あはうふやひくもあさうと

舟泉

ひよあつくと別あつた〜あつた花
芭蕉

桐葉のあつたさひ〜あつた蒲萄汁
作者 不知

草あつた〜あつたあつたあつた
伏見 仕口

あつたあつたあつたあつたあつた
荷今

あつたあつたあつたあつたあつた
胡及

宗祇法師のあつたあつたあつた
あつた

あつたあつたあつたあつたあつた
素堂

あつたあつたあつたあつたあつた
後似

仲秋

あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
芭蕉

あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
加賀 小春

あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
津嶋 益本

あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
傘下

あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
上枝

あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
一袋

あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
伊豫 一泉

山崎の麻糸の作りに笑たり 重五

紅梅のうらたうき 其角の圃 其角

きし地合のむしひてん 東頃

救世の中 林芥

おんせいのん 越木

丁のたもと 宗和

たのうらな 一七

花とて文花たるは 如賀 北枝

素筆のうらたうき

たすの海鳥のぬき 越人

一本乃芦の植 防川

松の木と吹あて 舟泉

ちつとて寝る池ぬ 胡及

ふよかからぬ市 暁龍

閑の素年よあひこ

こそ旅路の志は 其角

いそか 女野方其之の菊信星 芭蕉

加賀

暮秋



あまの風く 花 くらぬ乃の草花 巴丈
ま しく菊れらぬそが口花 昌碧
し 深ぐく 妙 越

し じや 作 ぬら 菊花 も 風 きのり 曉 船

荷をうき室く旅ぬを所 菊の外をせ
とし 菊はきくも 土器 出はれはく

かす ぶら びの 細も 入や 簪 帽子 同
かま くなりて 菊作も いたひ たり 永
かま くりて 菊も 入 ちの 坊木 千 周
淋し と思 檀 花 実 あり ぬ 是 若 其 夕

伊豫

濃河

あはれあはれとていふすち地別梅と

加生

草花梅やまのくまきつららる

路通

あはれあはれとていふすち地別梅と

あはれあはれとていふすち地別梅と

あはれあはれとていふすち地別梅と

あはれあはれとていふすち地別梅と

あはれあはれとていふすち地別梅と

あはれあはれとていふすち地別梅と

曠野集卷之五

初冬

あはれあはれとていふすち地別梅と

湖春

あはれあはれとていふすち地別梅と

あはれあはれとていふすち地別梅と

尚白

あはれあはれとていふすち地別梅と

湍水

あはれあはれとていふすち地別梅と

あはれあはれとていふすち地別梅と

荷今

...

梨木能心志... 秋之如... 秋之如... 秋之如...

野水

蕞虫乃... 乃... 乃... 乃...

昌碧

麦... 乃... 乃... 乃...

全

乃... 乃... 乃... 乃...

一升

乃... 乃... 乃... 乃...

落梧

石白乃... 乃... 乃... 乃...

胡及

青... 乃... 乃... 乃...

文麟

人をもほろしむる目

と熟ちれ共らもこの世を

落格

物よの下階のさすきしゆれ

吹玉

霞し守りうらし藁とるきしゆれ

傘下

こかよ二日の月のぬちち

荷子

つぢあつ栲の繁とあふくぬより

一髪

このよこしくゆきし海しき用極裏

同

枇杷乃花人のつらぬく木陰のれ

同

葉乃心ちものくつるこころ

今晨

和木此を志しゆれしゆれ

野水

藁虫乃いつらえりや陽花

昌碧

麦あさきし青藜と成しゆれ

全

たもとくやあまき比の衣くへ

一升

徳ものびきさみくあはる花

落格

石白乃破くおしやしむれ花

胡及

青くさもくはさるる花

文鱗

いささか物籠さるる葉の枝 上枝

あつた風乃体もたなき野山 洞雪

葦池のうらむらむらえんゆる枯葉の 一髪

層を抜く石まはまつくかたけの 松芳

こかきく吹きぬけり層の帯 杏雨

雪も掃れぬくひさかたの帯の帯 蕉笠

寒月

寝るもあつた度く月夜面白 野水

あつた乃ち根あつた月あつた 俊似

仲冬

れろくあつた鐘あつたあつたあつた 勝吉

志らぬあつたあつたあつたあつたあつた 皇治

横くあつた馬糞にあつたあつたあつた 林芥

柴もあつたあつたあつたあつたあつたあつた 杏雨

いささかあつたあつたあつたあつたあつたあつた 宗之

嘉祥の如くんん乃室のこをれり
杜園

乃棚乃葉は多きなる水の一那
勝吉

深き池の水のきり歌きり繁
俊飯

つきりてすの葉をきりり層氷
除凡

打たるく何れり一花氷柱水
夜舟

兼題雪舟

峠とて雪舟をきりり雪場水
嵐彈

ぬれくすの雪舟はきりり水
荷介

雪舟のこめて雪舟のきりり
長虹

馬をきりり雪舟のきりり水
一井

雪舟引也休むとてきりり水
龜洞

つぎのこも雪舟のきりり水
言叶

青海や羽白黒鴨赤
忠知

舟よこす又雪舟のきりり水
龜洞

朝鮮をきりり水ある人交りり
村俊

井を切るときの月夜に雪舟を
れとてきりり水裸なるなり

汗かして谷々突くむ氷室の 冬松

海峯騰乃毒煙をくさ氷室の 利重

炭竈乃穴物きくせうるるあり 龜洞

藤屋の女はくちやむおはらむ 怪車

火の河へて渡はくあり地を椿 ^{加賀} 一災

うらりー尻起せばをばも幾 龜洞

冬終りてはくよりそんはくら 芭蕉

歳暮

餅つまやゆもむねすほくひ 李下

吾書つくと見ぬものさう 尚白

ちん花の後をすくむくち色ぬ 野水

もくせく櫓つゝかゝる葉知小 亀洞

煤もろひ梅くちくちを 一髪友

木曾の月... 人びとをひく

とて柿の實も山にわく

とての葉をさししあはかきうや

ちん

と一のと純粋な實のなりか 荷今

門松とらと了路一存ひ 内習

田作と丸遊子のきんさ 龜洞



麗々亭

